

令和7年11月定例市議会

行政報告要旨

総 社 市

本日、11月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださいます。誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

本議会が改選後初めての定例市議会となります。ここにおられる22名の皆様と、総社市の新たなステージに向かっていけることを大変うれしく思っております。議会の皆様と共に、総社市のシンカを目指して、自由闊達な議論を交わしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

初めに、「ふるさと納税」及び「そうじゃのお米支援補助金」について申し上げます。「ふるさと納税」及び「そうじゃのお米支援補助金」について、幾度にもわたるご審議を重ねられた上で、議会の皆様から貴重な御提言を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

今回提言いただいた、

①ふるさと納税について、その適正な運用について検討を講
じること、

②そうじゃ地食べ公社との関係性について、透明化を図ること、

③「そうじゃのお米支援補助金」について、制度の見直しを
図るとともに書類等についてのチェック機能を強化すること、

④そして、市民への説明責任について、市民に対する丁寧かつ
誠実な説明により信頼回復に努めること

の4項目はいずれも重要な御指摘であり、その一つ一つについて
真摯に向き合い、改善を図ってまいります。

また、議会の皆様からの提言に加えて、監査委員による監
査の結果もいただいております。今回いただいた提言と監査
結果は丁寧かつ慎重な調査に基づくものであることから、そ
の内容を重く受け止め、第三者委員会を設置することはせず、
必要な改善と透明化に全力で取り組んでいきたいと考えて
おります。

さて、本議会で10年先の総社市のあるべき姿を示す、第3次総社市総合計画の基本構想を提案させていただきます。この間、徹底的に市民に寄り添う福祉施策を中心としたそうじゃ流施策の推進により、日本一市民にやさしい市役所の実現を目指して突き進んで参りました。その結果、総社で暮らしたい人が増え、中四国地方では唯一となる、15年連続の転入超過を達成し、住みたいまち、住み続けたいまちとしての認知度も高まっています。この徹底して市民に寄り添うという姿勢は、10年後も継承すべき、行政の本質的な在り方であり、第3次総社市総合計画においても、これを踏まえた将来都市像と基本理念、そして5つの基本目標を提案させていただきます。

人口増への挑戦を諦めるわけではありませんが、これまでと同じように人口を増やしていくことは、決して容易ではありません。たとえ人口が増えなくとも、これまで以上に、生活の質を追求し、総社市の政策を「シンカ」させていく。その先に、しあわせを実感し、総社市に住みたい、住み続けたいという人が増える姿を追求していきたいと考えておりま

す。

特に重要となるのは、未来を担うこどもや若者です。私は、今年度に入り、市内の全ての小中学校、全256クラスを訪問し、より良い学びのための環境整備の必要性を再認識いたしました。こども、若者の成長のために、学校施設等の教育現場の充実に力を入れていきたいと考えております。

また、総合計画以外にも、まちの将来像を描く都市計画マスタープランや、環境基本計画など各分野の基本方針を定める計画も令和8年度からのスタートに向けて、現在検討を進めており、総合計画とそれらの計画をトータルして総社市の未来を創るための姿を示していく時期でもあります。いずれの計画においても、新しい総合計画を軸に、これから先の総社市の持続可能な姿を示していかなければいけません。

例えば、環境基本計画では、カーボンニュートラルに代表されるような、地球規模での環境問題に対処していくことも想定しながら、快適な生活基盤と豊かな自然環境が、非常に近い距離にあるという総社の特徴を活かし、それらが融合した都市の姿を示すことが重要であると思っております。また、

現在、議論を進めている、水道料金と下水道使用料等の改定も含めて、次世代へ引き継ぐための持続可能なまちの在り方はどのようなものなのか、ということも非常に重要な論点の一つであると考えております。

この新しい総合計画等の策定を機に、これまでとは異次元の総社市に向かってチャレンジしていきたいと考えております。

次に、作山古墳の発掘調査についてご報告いたします。この調査事業は、全国の歴史ファンからも注目されており、発掘調査がスタートして約3ヶ月が経過しました。これまでに、円筒埴輪列や古墳を覆う葺石の存在が確認されるなど、短期間ではありますが、様々な成果を挙げてきました。

特に、古墳のくびれ部にある、祭事を行っていた場所とされる造り出しについて、前方部の片側に2つ並んで存在することが明らかになりました。これは岡山県内では初めての事例であり、全国的にも非常に珍しい構造であるとされています。

今年度は調査の初年度であるため、今後も更にいろいろなことが明らかになっていくものと思っております。11月23日から昨日まで、現地説明会を開催し、市内外から662人の方にご参加いただき、ここまでの成果を発表しております。この作山古墳が総社市民にとって素晴らしい、全国に誇れるものだと思ってもらえるよう様々な方法で調査成果を発信していきたいと考えております。

11月19日には、外国人集住都市会議そうじゃ2025を開催しました。全国各地からオンラインも含めて、1,000人の方に参加をしていただいたことに感謝申し上げます。

会場である市民会館には、400人を超える参加者が集まり、高校生や大学生からも多くの参加があったことはうれしい限りであります。中でも、総社南高校の生徒には、会議の司会をはじめとして、様々な形で会議の運営に関わってもらい、会議の盛会に大きく貢献してくれたことを大変ありがたく思っております。

会議の中でも強く訴えましたが、現在の在留資格制度で適法に入国し、在留している外国人を単なる労働力として考えるのではなく、同じ地域で生活する仲間の一人として、共に社会を支え合うことが、この人口減少社会の日本において、重要なことであり、特に地方ではその影響が顕著になると考えております。ジャパンファーストという言葉がにわかに注目を集め、排他的な考えを主張する言説が現れていますが、その考え方ではそう遠くない未来に、外国人から選ばれないまちとなってしまうことは明らかなです。

総社市はすべての市民が幸せを感じながら暮らせることを目指しております。外国人も同じ総社に住む市民の一人として、幸せを感じながら暮らしてほしい。そのために、言葉や文化の違いなどの障壁を乗り越え、同じ地域に住む仲間と共に、手を取り合い、支え合う、真の多文化共生の実現に全力で取り組みたいと考えております。

ここで、開催まで残り3か月を切った、そうじゃ吉備路マラソンのエントリー状況についてご報告いたします。

昨日時点で、5,672人のエントリーを受け付けております。前年同日と比較して1,088人増え、好調な状況です。ここ数年参加者の満足度も大きく上昇しており、多くの方が楽しみにされている大会になっております。前回に引き続き、今回も学生実行委員会を立ち上げ、学生らしいアイデアと活力に満ち溢れた企画を考えてもらっております。学生や多くのボランティアの方の協力を得ながら、おもてなしに力を入れ、質の高い大会にしたいと考えております。

また、11月1日から職員の服装について、試験的に通年軽装を実施しております。これまで、議会においてもご提案いただいた内容ではありますが、働きやすい環境の整備により、職員のパフォーマンスが上がることで、日本一市民にやさしい市役所の実現につながっていくことを期待しております。

ここで、8月議会での検討事項について、その結果をご報告いたします。

山名議員から、夏休み期間中だけでも各公民館に遊び場を作り、利用してもらう考えはないかとのご質問がありました。これについては、各公民館で実施の子ども対象のイベントは継続しながら、子どもの居場所スペースについては、今後柔軟に取り組んでいきたいと考えております。

冒頭にもお話したとおり、本議会が新体制になって初めての定例市議会であります。これまで以上に、議員の皆様と自由闊達で活発な議論を重ねることができることを祈念しまして、私からの行政報告とさせていただきます。